AGRI PROFESSIONAL

農業プロフェッショナル

VOL.1 肉用牛

個体管理きめ細やか 血統能力最大限に

長崎県大村市　北嶋光昭さん

全国屈指の肉用牛産地、長崎県内で肥育される和牛の銘柄「長崎和牛」。主産地のJAながさき県央で肥育部会長を務める大村市の北嶋光昭さん（67）はきめ細やかに牛を観察し、肥育する黒毛和種200頭の底上げを徹底、地元の優れた血統能力を最大限に引き出すトップランナーの一人だ。

危機感が原点の職人技

北嶋さんは全国トップレベルの種雄牛が造られている地元の血統を厳選するが、肥育は管理という職人技がものを言う。一日のほとんどを牛舎で過ごして食い込みや便の状態など、できる限りその時々の一頭に合わせて管理する。基本は「個体差を極力少なくし、おちこぼれをなくす」ことと語るが、その姿勢が牛のストレスを軽減、血統能力を引き出している。北嶋さんの牛は肉質、枝肉重量ともに安定していることが特長だ。

餌は単味飼料を自家配合。おがくずを使う敷料の交換サイクルは10～15日おきと他の農家の半分の期間。「努力は牛が（高く売れて）返してくれる」と話す北嶋さん。肥育の醍醐味と同時に、肥育管理が経営に直結することを危機感としてとらえている。

経営安定対策が不可欠

ただ2006年末ごろから約2年間続いた飼料価格高騰の影響は今なお色濃い。枝肉価格は低迷している。そこで経営を下支えしているのが北嶋さんも参加する独立行政法人農畜産業振興機構が行う「肉用牛肥育経営安定対策事業」（マルキン事業）だ。同事業では粗収益が生産費を割り込んだ際に、生産費の一部を補てんする。直近の09年7～9月期で5期連続の発動となった。北嶋さんは「所得確保と経営安定のために必要不可欠な制度だ」と話す。

地元消費を販売の主軸に

一方、販売にも力を入れている。01年の牛海綿状脳症（BSE）をバネに始めた地産地消運動で、「長崎和牛」を扱っていることを掲げる飲食店や精肉店は県内110店に。「ロマンあふれる長崎和牛をぜひ味わってほしい。さらに地元消費を拡大したい」と語る北嶋さん。イベントには仲間とともに駆けつけ、市民に魅力を訴え続けている。「県内生産量の半分を地元で食べてもらえるようになれば。」

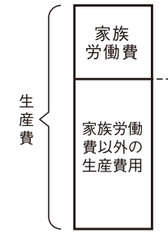
12年の第10回全国和牛能力共進会の開催地は長崎。大会テーマには「和牛維新」と謳（うた）われる。開国の地から国産和牛の新たな歴史を拓く気概だ。

肉用牛肥育経営安定対策事業について

独立行政法人農畜産業振興機構が実施する「肉用牛肥育経営安定対策事業」（マルキン事業）は、粗収益が生産費を割り込んだ際に、生産者に生産費の一部補てんを行うものです。補てん額は赤字額の8割で、四半期ごとに肉専用種、交雑種、乳用種の3区分でそれぞれ1頭当たりの補てん金単価を算定し、交付しています。

原資は生産者と国が1対3の割合で積み立てています。また物財費をまかなえないほど収益が落ち込んだ場合に対しても別の緊急対策を講じています。さらに繁殖経営に関しては、肉用子牛生産者補給金制度を実施するなど、総合的に肉用牛経営の安定化を図っています。

肉用牛肥育経営の安定のために、マルキン事業をご活用ください。



お問い合わせ先

肉用牛肥育経営安定対策事業	畜産振興部畜産振興第3課	TEL03-3583-8639
肉用子牛生産者補給金制度	食肉生産流通部肉用子牛課	TEL03-3583-8697

詳しくは、当機構のホームページをご覧になるか、気軽にお問い合わせください。

ホームページ http://www.alic.go.jp

alic 独立行政法人 農畜産業振興機構